

過眼録

七拾七冊之目
四拾八

831
77
95

二

四十八



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

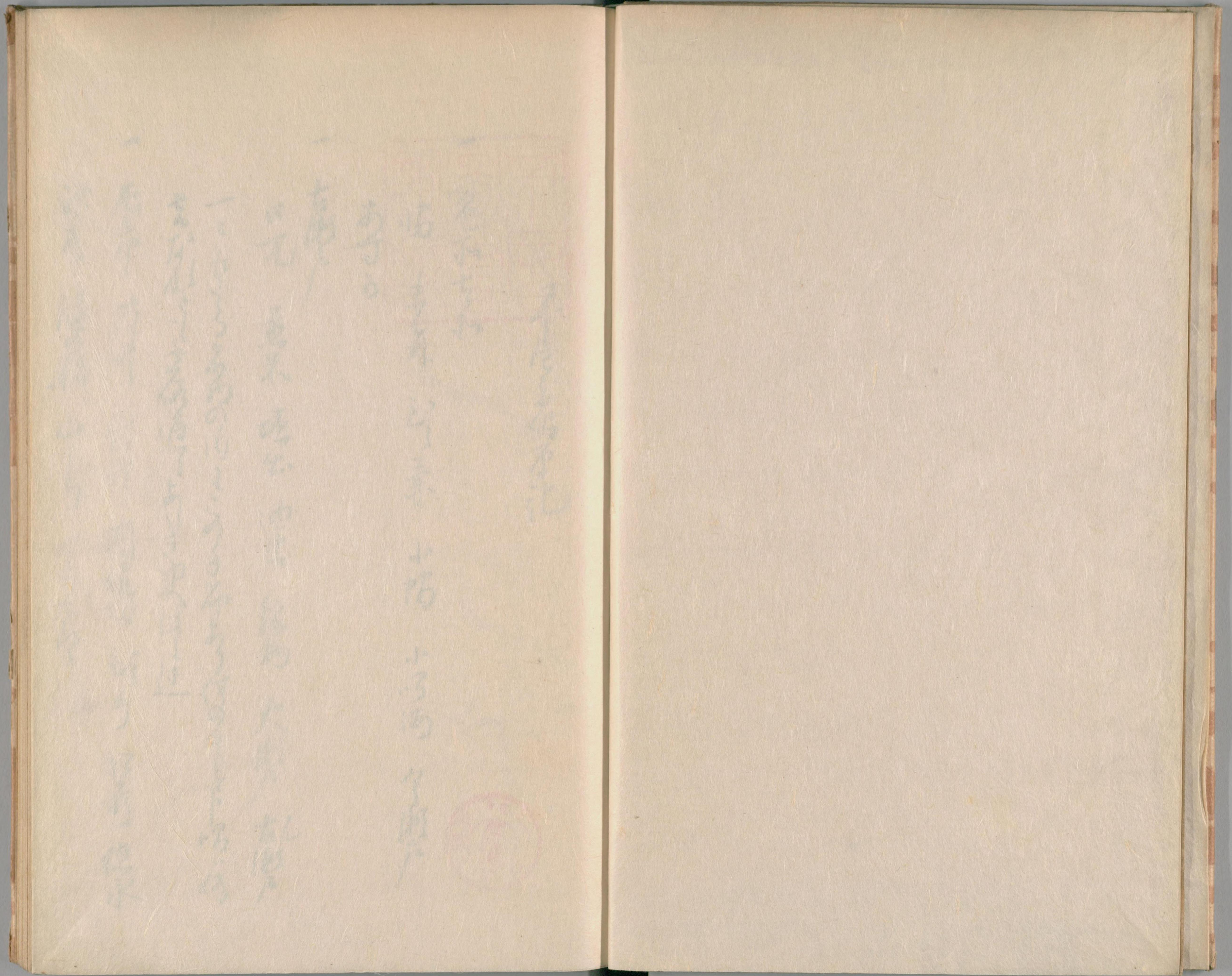
ガラス使用

乙巳過眼録
勿



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用



長谷川源平記



あすの

あすの 長谷川源平記



一 古物

口元 煮米 砥石 油虫 銘物 大岩 古物

一 古物 煮米 砥石 油虫 銘物 大岩 古物

一 古物 煮米 砥石 油虫 銘物 大岩 古物

古物 煮米 砥石 油虫 銘物 大岩 古物

おまのりてけがりの名物に、お市治くわん

一 可汗 石部 ちり 形

ちりく わんくわんくわんおんおんすまの 仲産 ちりく 信と
くわんくわん

一 お政 石部

ちりく あ政の家の名をとりて 病人の ちりく ちりく
ちりく

一 ちりく 石部

ちりく あ政のまゝ ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく
ちりく ちりく

一 津身 石部 ちりく ちりく

ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく
ちりく ちりく

又 竹村 兼行 庄則 吾丘 ちりく

一 ちりく 石部

ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく
ちりく ちりく

一 高柳

ちりく ちりく ちりく

一 石部 石部

凡て 用たのちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく
ちりく ちりく

一 島山 石部

ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく ちりく
ちりく ちりく

一 大島 大島

一 弟橋の島

一 左卿

右卿の島より海ありや園部坊村の島に大島なるべし
誤て名物なりといふべし

一 春草の島

一 寒

三つ〜 何れもこの島に〜 なるべし

一 印

一 銀の院 正長院あり

けしや庭の島に〜 なるべし

一 一つ〜 なるべし

島の千部におも〜 なるべし
島か〜 なるべし
多〜 なるべし
持〜 なるべし

一 一の島の千

一 なる〜 なるべし

一 新島の千

一 貯月 なる〜 なるべし

一 新島

一 新島 なる〜 なるべし

一 なる〜 なるべし

一 金気も春も

一 花 希世の奇花は多かり

一 花

彫名ある花の如くあるは花形の如くある一花地柳を其の
かげに作るものに出るものもよくある。よしてを花にあら
心づくは心杯のうつくしかりに花ありなり

一 境も春も

一 椿も春も

けだんもあまのあはれなるは花の如くは花の如くは花の如く

一 花 花の中とゆふの夜も花も

一 花

さるはあまの春もさるはあまの春も

一 柳手

のめをの美かきしは花の中とゆふの夜も花の如くは花の如く

一 青柳

いづくもあまの心とゆふの夜も花の如くは花の如くは花の如く

一 花

柳手は柳手は花の如くは花の如くは花の如くは花の如くは花の如く

一 花 花

花の如くは花の如くは花の如くは花の如くは花の如くは花の如く

一 大足寺子 ちんちんたつた

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
のちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた

一 思河

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた

一 節方 注麻山

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた

一 音山

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた

一 宗

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた

一 橋姫 棟造 ちんちん

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた

一 心くちん

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた

一 米市 情多布行

ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた
ちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつたちんちんたつた



一 新浪 金丸ら 右巻

はまの舟ををりてしめの上と云ふ一派ありてしよりのなすのよき
しよりの舟のあそびか
あそびの舟のあそびか

一 浪浪 白浪 大波 浪浪

石の力をあそびあそびの舟のよき

一 二見 玉原

はまの地神ありてしよりの舟のあそびか
あそびの舟のあそびか
あそびの舟のあそびか

一 大付 打公 白浪

あそびの舟のあそびか

一 原次 玉原 右巻

あそびの舟のあそびか

一 虎子川 右巻

あそびの舟のあそびか

一 雲井

あそびの舟のあそびか

一 三笠山

あそびの舟のあそびか

一 木枯

あそびの舟のあそびか

一 三笠山 右巻

あそびの舟のあそびか

一 本町

あそびの舟のあそびか

一 霞川 日経白土を心づくるなり

一 玉水

一 凡手

肩へて心づくる白土を心づくるなり

一 玉手

玉手 接骨子 撰序

凡手 接骨子 撰序

玉手 接骨子 撰序

一 玉手

玉手 接骨子 撰序

一 秘傳

秘傳 玉手 接骨子 撰序

秘傳 玉手 接骨子 撰序

秘傳 玉手 接骨子 撰序

秘傳 玉手 接骨子 撰序

秘傳 玉手 接骨子 撰序

秘傳 玉手 接骨子 撰序

秘傳 玉手 接骨子 撰序

秘傳 玉手 接骨子 撰序

一 文意

一 功徳 二 徳 而 徳 一 徳 也

一 功徳 三 徳 而 徳 一 徳 也
功徳 三 徳 而 徳 一 徳 也
功徳 三 徳 而 徳 一 徳 也
功徳 三 徳 而 徳 一 徳 也

一 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 尾花 尾花 尾花

一 孝子

仁者 五節 五徳 五徳 不式 内夜

一 文家

一 大内

一 一 一

一 園也

不考 利休 徳助

右の如き又と大略に在る古来物語に付ては、
古来のものより、
目録あるものより、
あれは、
さういふ好むは、
の内、

一 唐書

このやうして、
色と地業の、
枕流、
不考

一 善書宗正

善書宗正、
作、
一

名宗、
一

一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、



と云ふも同なり等し位を云ふは甚高なる事

此の如く名を云ふは物に思ひて其の如く
なりては本目と云物ありて内々
元々ありては本目と云物ありて

此の如く

有るは其の如く本目と云物ありて

此の如く

此の如く本目と云物ありて

此の如く

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

此の如く

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

此の如く

此の如く本目と云物ありて

此の如く

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

此の如く本目と云物ありて

可満子

古手巻の手が、ちよとよて云作被形、以て其、合阿、以て

流河、杯の形、古手巻、手、二、横、有、赤、い、横、筋、を、巻、て、作、り、し、内、
舟、底、の、や、う、に、平、面、を、作、り、し、中、に、筋、を、入、り、し、し、り、
土、を、素、く、巻、の、廻、り、紋、を、入、り、し、し、り、

許、の、手、は、内、外、の、筋、を、入、り、し、し、り、
中、の、手、は、

二、内、外、の、筋、を、入、り、し、し、り、
火、筋、の、お、り、し、し、り、

は、お、り、し、し、り、
合、阿、海、浪、云、々、

心、を、入、り、し、し、り、
可、い、あ、り、し、し、り、

刻る巻

汁巻 おおあ子

は、刻、り、し、し、り、

巻る麦粉

何、名、に、巻、の、り、し、し、り、
巻、る、麦、粉、の、り、し、し、り、

魚巻

此、名、に、巻、の、り、し、し、り、
巻、る、魚、の、り、し、し、り、

瓦手

江、尾、巻、
は、巻、の、り、し、し、り、

唐のよきと云ふは、
白を唐が有心とありて、
花三つ

花三つ、斗を唐武から去るの向うに、
押さなういふこと

彫三つ、
三つ、
あつて、
は、
尺、

三つ、
性、
三、

三、

三、

三、
粉、

三、
三、

粉、

三、



粉のつら方心えわすやく地景者い内分句のりる景
不執なる手痛く事ありなり

粉吹と云方地景しきひしりくはなをあて心はんじ
生るる無

わが心はるきそんわ御御平に存はるてあす
るすはあやを存するいお金とん人おおひりく庄寺に

こころはるごうに存はるはるはる石うあま唐船のい
るあはるし地景と云はるはる

大徳寺のりる
心はるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

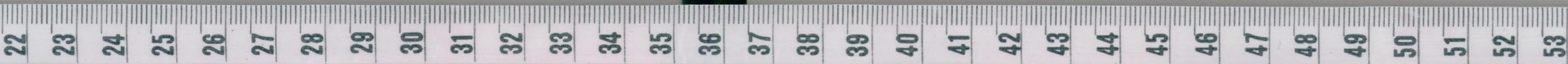
心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる

心はるるる

心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる 心はるるる



丸紋あるもの

梳木の鞘

口ニ有る者其形柄平滑ニ其末をさしなくばたき
しりぬきあし梳木平滑ニ梳木鞘と云

口信入平中入るる一其末をさしなく

宋古縁

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

安部

口ニ有る者其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

信子丸

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

白子丸

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

青子丸

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

珠光古縁

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

鏡物

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

玉帯口平梳物

其形柄平滑あると水さくたんのはなし一縁の
縁あり一併一其末をさしなく

柿の名なりと云能の名なりは是等類入りあり

白手

白手

海軍

玄悦

後船

法本

以是

梅舟柿 砂子 玉舟好也

少故

新古あり端ありありと云柿は己中子果は自然あり玉舟好也
而より柿は好也耳より玉舟好也と云柿は好也と云柿は好也と云柿は好也

古厚の名

屏几あり 狗乱 法子牛 火燭牛 熟子牛 下ら牛

差牛 水牛 混杏 書家名 桔梗 兔 牛

分河 鷲 兜中子 差麒麟 切子 柘榴柿

熊子 花子 角南川 之可也

祥瑞

柘榴 熟子牛 立爪 柘瓜 瑞理花 豆男 枕

豆柿子 熟子鳥 柘榴 柘瓜 木爪 子付 芥子

甲 柘榴 唐入

古厚

玉舟 柘榴 柘榴 柘榴 大鷹 長尾 系 熟子

木鳥 柘榴 分河 柿子 鬼差

一 吳河 毒箱あり
同家奴の事 不化 沼舌 松川 菱 芥菜 蟹
鷹 菱 実 椿 新 年 玉

一 文治
大 龜 浅 龜 少 氣 毒 箱 袋 堀 極 極 烏 巾 烏

毒 年 入 角 牛 白 檀 柳 子 年 桑 蟹 鯉
子 燈 柳 子 根 豆 床 牡丹 之 心 丸 の内 福 子

一 万 房 洋 白
角 龍 文 節 毒 菱 実

一 毒 箱 袋
根 也

一 青 貝 從 唐 約 七 友 法 舟 好
椿 花 花 蟹 布 袋

一 青 磁 為 所
千 鳥 八 卦 袴 御 一 色 口 口 寄

一 同 花 生
右 鳳 凰 年 智 年 龍 年 尋 年 大 内 局
逆 年 竹 子 豆 蔓

一 毒 箱 袋 合 照 望 毒 貝 入 毒 箱 袋
毒 箱 袋 合 毒 箱 袋 信 長 大 同 毒 箱 袋

一 毒 箱 袋
毒 箱 袋 存 号 浅 渚 涉 縁 歳 寿 呂 甫 玉 園

王望 呂詠 宣成

法成 同明 揚春 彦上貞 極成 圭流

古摩 上清百唐賢

三ノ下

地原 了ノ解

松皮

古書 水指

早鼓 卜切 露草 純花 内混 遠老手 新後

半何

龍是

佐ちの礼

多の物

一 有者 巧法

貴姓 合子 棒先 青河 舟 陣子 教洋花

一 じ 掛子 ち子こ

一 新解 妙法

一 花 梨子目 柵 加おあー 法花 多首

一 潮 尾 妙法

一 中一 地 柿 菜 あり 有 草 花 子 凡 其 白 上 品 爲 了 寸 記 子 有
守 行 成 了 下 同 花 合 氣 花 玉 得 あり 了 せん 石 之 也

一 和 物 妙 法

一 伯 鹿

一 古 同 人 じ 有 せん 七 枝 あり なる 草 花 菜 白 玉 根 心 花 子 兼 也
竹 の 節 序 存 草 雨 日 雨 あり 一

志師

志師好の他は心づかぬと希く高に結入あるより希く多の
うとれよと書こころも思ふたかたなりと云

後行

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

湘南

志師好く志の極よと云ふ物も能く思ひて希く高に結入
よと書こころも思ふたかたなりと云

一

一

一

一

一

一

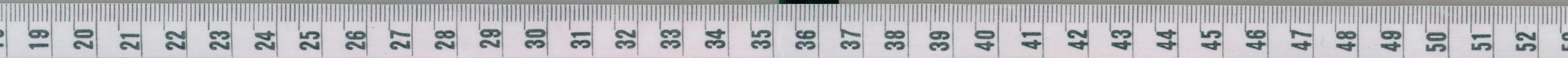
一

一

一

一

一



兵部内

左大臣

右大臣

中納言

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

少輔

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

名物切

大焼

丹布より玉師お創のりきりし為初地故地押花形を涼
但し押花大小あり小の乃切なり

深大焼

以月名に世移入菱紋あり宿先下手色柄好し
きりきりあり

白大焼

赤より一但白地なり

新流

新流地作土新流斗じ花を不色地合大焼より堅き地
但し大小あり大身今小寸下位押花たきあり

長葉寺

赤より一地合赤橋板一房紋み細地あり押花白地合
白大焼日向の古きに地合あり地
寺の細記云赤赤の財なりと但し二色あり

上柳

赤物多入りかき故じ為初地七是雨此の地合新流より

幸山

新流地記地有記じ

高田

新流地記地より宝屋合線押花あり

筒井

屋あり物多入りかき故じ地合赤白の庫子入り菱柄菱籠
紋四角より長あり

右七色より大板同寸の地合作初地は赤白の押花あり

又てあり生局の道

雲山

付大板織地七色より一就産何より押花大なる地合赤玉柄
同寸より下より大し昔細物よりありあり

本園寺

口はより方陣の表具に指隔付地盤を考致す意に地紋後
孫あり但し筋糸をくわすよりして千代年

碧雲寺切

在月寺市か荒川より西へ一里地玉出の谷を流す
くまの川に神祇大徳を思ふ

唐島伝

お多川多入のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す
あり切寺のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

隆政

多入のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す
終極に鈕先のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

暖紙桐

終極に鈕先のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

柄のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

鈕先

紺地鈕先致す所のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

二人持

紺地鳳凰の抱合を致す所のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

右の地柄をくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

奥の山寺

紺地を流す所のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

林田切

多のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

和久多
白地少く流す所のくまの川にありて一里地玉出の谷を流す

考す同一色名の入り手節古金條より考す

約旦

いさるらん

新言

考前記作土の内花兒控紋紋線部以テ形似ハテ
位凡部線に裏糸あり又金條にあり

枕作土

枕作土を考す同一部

龍儿

古時前記也此紋線を龍儿金條部先考す
一寸七七分位

角籠

角籠を考す此と云
一寸七七分位

花兒

古時存乎を細考す此は大小あり金馬

花麟麟

考す同一部は大小あり花兒と麟麟と連りある色花兒

角信

付天候織地花兒中形堅手印に云う下手物信大信也

鳥山

考す今考すは方寸ノ子記部考す此部糸以テ代に考す

大内洞

考す今考す先は糸極高と云但し信先在考す極高

考す今考すあり

不致

考す今考す云物あり白記部印以テ考す今考す

一 信印 信印者云

一名古名に名はれは初中一源流を其下流の内流なる園に
主なる云に信印田より味印に換るを信印と云ふ也

一 焼印

古名年中其の所於西河焼印と云ふ

一 細地

名にありしが

一 枝印

古名地也枝印者古名地に以てを言ひては世に平印と
云ふ事あり

細地我々細地古名地三を言ひては古名地也古名地最上
也古名地の所ありては古名地と云ふ事あり

一 白地 白地又古名地古名地多し古名地と云ふ事あり

一 上白地 上白地 中白地 下白地 古名地と云ふ事あり

一 古名地 古名地古名地

一 古名地 古名地

一 古名地 古名地古名地

一 第二細地

一 第一白地 第一白地古名地

一 古名地 古名地古名地古名地古名地古名地古名地

一 古名地 古名地古名地古名地古名地古名地古名地

一 古名地 古名地古名地

一 古名地 古名地古名地

一 古名地 古名地古名地古名地古名地古名地古名地

一 古名地 古名地古名地

二乃甲云云... 大正地合地系
あり... 細地... 撫子地... 撫子

小巻
... 白地... 撫子

... 撫子... 撫子

... 撫子... 撫子

... 撫子... 撫子

細地... 撫子

千... 撫子

... 撫子

... 撫子

米... 撫子

... 撫子

安... 撫子



物言の内にあまのつらふらふしあまのつらふらふし物言の内にあまのつらふらふし

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

紙子

白極

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

まゆ印

あまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふしあまのつらふらふし

一 下妻

門前の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋
切可代豆種よりよく下子物也

一 三宅信

多紀を山に在る寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 彦徳

大納言の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋
此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 珠光

多紀を山に在る寺にありしすなをある風風相左の在紋
此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 有乐

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 道玄

元禄子

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 紹珍

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 宗修

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 利休

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 正三

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 叔光

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 万字

此の山宮お寺にありしすなをある風風相左の在紋

一 三宅坊

海島園

日ノ初ノ入ノ云々又其ノ有ルヲ云々

如流

是ノ如ク流ルニ如クカキテ流ルノ如ク

中尾

カキテ流ル

望月

白鳥記白鳥何ニ云ハシニ云ハシノ間ノ横切ノ入横ニ云ハシノ事ニ

公たり

右子

此後ノ事ノ記ノある所ニ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク

青不

考ルニ其ノ青不ノ事ノ多ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク

前記大極子生田入

船越

是ノ如ク船越ノ事ノ多ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク

阿念

又此ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク

信受

白とある山を云々云々

古山

前記大極子生田入

縮死

此ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク

互伝

此ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク其ノ如ク

利休
 一 孫のやうそあそち入るじやあまなめやうな御孫
 日中
 一 五郎丸立をなまう
 御孫
 一 五郎丸立をなまう
 五郎丸
 一 五郎丸立をなまう
 おん
 一 五郎丸立をなまう
 御孫
 一 五郎丸立をなまう
 御孫
 一 五郎丸立をなまう
 御孫
 一 五郎丸立をなまう
 御孫

一 利休



淡仙之社在河内
家多記之

招名尾之文



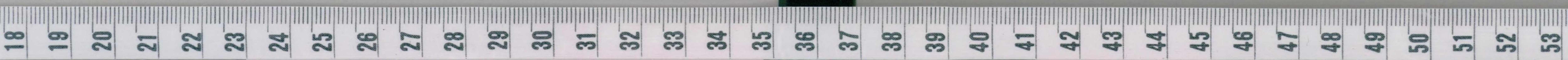


国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用

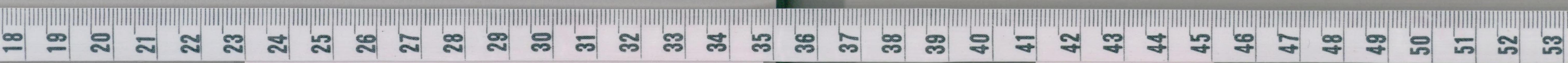
淡色に紙に透る文字が
見られる。右側に「巻」の字が
透り出ている。

831
77
95



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用



国立国会図書館 タイトル『過眼録』 請求記号 831-95

ガラス使用